

# 市が開発・経営許可

秦野市没沢の八国見山（319㊦）南面区域

での大規模霊園開発問題で、市が事業主体の公益財団法人「相模メモリアルパーク」（秦川町）に開発許可（都市計画法）と霊園経営許可（同市墓地条例）を出していたことが分かった。既に林地開発（森林法）も許可されており、法的条件が整ったことで法人は間もなく着工に臨み切るとみられる。

【高橋和夫】

## 近く着工、自然保護グループ反発

許可は3日付。霊園経営条件として、土地所有権等では事業主体による土地所有が原則とされており、有を促した。

霊園予定地は1990

9・9㊦）は現在、湘南地域の株式会社との間で、最も自然環境が良好係者が所有しているたな「A1ランク」に評価め、市は法人への許可のされている。国鉄オオム

ラサキの県内最大級の築地でもあり、「没沢丘陵を考える会」（日置乃武子代表）などの自然保護グループは開発による環境悪化を懸念する。

自然保護グループはこれまで「事業主体は事実上、霊園の開発・経営が

認められていない株式会社で、実態は公益財団法人の名義貸し」などとして、開発許可の差し止めを求めてきたが、市は法人は株式会社と用地取得の委託契約を交わしている」として、「事業主体

は当初から法人」と説明してきた。

自然保護グループは

生態系の破壊も

**解説**

八国見山周辺は、没沢丘陵を含めた大磯丘陵（東西15㊦、南北10㊦）と丹沢山系をつなぐ「緑の回廊」の心臓部。開発に伴う森林伐採や尾根を削って谷間を埋める造成工事により、オオムラサキの繁殖地が激減状態になるだけでなく、周辺の生態系の破壊も懸念される。

大磯丘陵では宅地造成などの虫食い開発が進み、八国見山周辺が開発に揺られた生き物の「駆け込み寺」となっている

「明白な事実を隠してあり、公正さを欠く」と指摘。霊園開発が避けられない状況となったことについて「子々孫々にまで環境保全の必要性がある地域での開発は、後世に禍根を残す」と訴える。

ことがこゝろ、2年、専門家の調査が分かってきた。今回、「A1ランク」地一まで開発の手が伸びることで、大磯丘陵の乱開発に歯止めがかからなくなる恐れがある。

本来、50年先、100年先を見据えた将来環境を構築するのが行政に課せられた使命の一つのはず。今回の霊園開発は、果土の利用と自然環境保全の根幹にかかわる重要な問題であるにも関わらず、県も市も事業者を後押しする対応しか取ってこなかった。

【高橋和夫】